



ふれあい報告書2002

環境・社会活動報告

地球上で一番たくさんのありがとうを集めるグループになりたい。

WATAMI

ワタミフードサービス株式会社

目次

トップメッセージ	2
ワタミグループの事業展開	
ホールディングカンパニー	3
環境マネジメント	
環境方針 / 目的・目標	5
環境管理体制	7
環境会計	8
環境監査 / リスク管理	9
従業員教育	11
環境コミュニケーション	12
環境保全活動	
店舗での取組み	13
本社での取組み	15
トピックス：ゼロエミッション構想	17
安全・安心への取組み	19
社会的活動	
社会貢献活動	23
事業活動	
店舗展開	27
トピックス	
編集後記	29
会社概要	
沿革	30

報告方針

この報告書は、ワタミフードサービス株式会社の本社全部門および全直営店舗の2001年4月から2002年3月までの環境保全活動ならびに社会的活動を主な報告対象としています。

自分が勤める会社を誇れる「いい会社」、 「地球上で一番たくさんのありがとうを集めるグループ」に なりたい。



2002年8月
ワタミフードサービス株式会社
代表取締役社長

渡邊美樹

自分が勤める会社を誇れる会社、地球上で一番たくさんの“ありがとう”を集めるグループ、そんな会社に、そんなグループにすることが経営責任者である私の責務だと思っています。

あるアルバイトメンバーさんが誇らしげに言います。

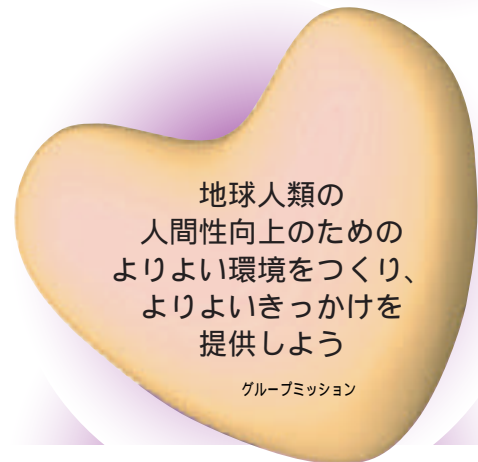
「僕が勤める“和民”っていうお店は皆で協力してごみを分別してるんだ。忙しいときは結構大変だけど、分けたごみの40%はグループ会社でリサイクルしているんだ。2年後には100%リサイクルする仕組みができるって聞いているよ。」

株式会社として売上高、利益額の目標達成を追求すると同時に、企業市民として少しでも社会の役に立つ存在になっていきたい。周りの方々にいい影響を与えられる存在になりたい。社員・アルバイトメンバーさん達が誇りに思えるような会社にしていきたい。こういったことを常に意識し、行動していきたいと思っています。

20世紀の大量生産・大量消費社会の反省点をいかして21世紀は「循環」「調和」の社会にしなくてはならないと考えています。そのためには、今日よりも明日、明日よりもあさって、無理なく肩ひじを張ることなく、コツコツと環境貢献、社会貢献、人間貢献活動を高めていきたいと思っています。

こうしたワタミグループの環境・社会・人に対する取り組みを広く皆様にお伝えするため、2001年度の活動を中心に、ご紹介させていただきます。

本報告書を通じて、皆様の温かいご理解と貴重なご意見を頂戴することができましたら幸いです。



すべての事業活動で、 環境・社会・人間への貢献を 目指しています。

ワタミグループの事業展開

ワタミグループは1984年に創業、“居酒屋”のフランチャイジーとして事業活動を開始しました。

1992年に「豊かで楽しいもうひとつの家庭の食卓」をコンセプトにする居酒屋「和民」を出店し、ファミリーレストランと居酒屋の間にポジションする新しいマーケット“居酒屋市場”を開拓、事業を拡大してきました。

以降10年間にわたり、この“居酒屋市場”という新しいマーケットでさまざまな切り口の業態を開発し、それらの事業を専門的にサポートする企業などを育成しながら拡大し続けてきました。

2008年グループ1000店舗
2020年グループ売上高1兆円・グループ3000店舗

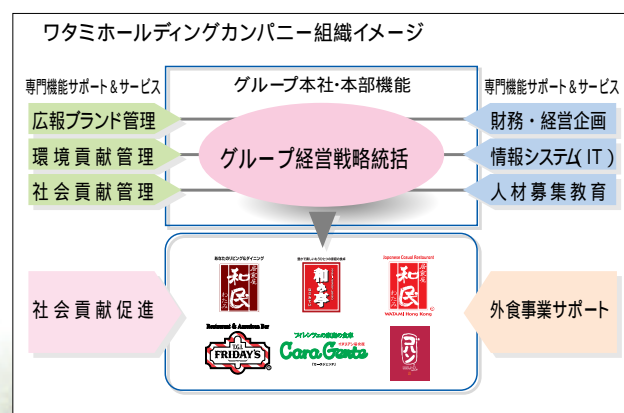
をビジョンとする「総合フードサービスグループ」を目指しています。

ホールディングカンパニー制へ

ワタミグループではさらに効果的なグループ経営を目指し、2004年を目標としてホールディングカンパニー制への移行を計画しています。

集約することで効果が高まる業務はホールディングカンパニーが担当、各外食カンパニーは各々の業態を展開していきます。

店舗を支える専門サポートカンパニーは「環境」「安全・安心」「農業」「教育活動」へのかかわりを深め、ワタミグループ全体でさらなる環境・社会・人間への貢献を目指します。



ワタミ グループスローガン

地球上で一番たくさんの方の“ありがとう”を集める
グループになる

ワタミ グループミッション（グループの使命）

地球人類の人間性向上のための よりよい環境を
つくり、よりよいきっかけを提供すること

私たちの目指すもの（経営目的）

- 1.一人でも多くのお客様にあらゆる出会いと
ふれあいの場と安らぎの空間を提供すること
- 1.会社の繁栄、社員の幸福、関連会社・取引業者
の繁栄、新しき文化の創造、人類社会の発展、
人類の幸福への貢献

ワタミグループの合言葉（社員のあるべき姿）

明るくのびのびと仕事をしよう

“ありがとう”を集めたい

ワタミグループが事業を展開する目的は「地球上で一番たくさんの“ありがとう”を集めるグループ」になることです。

こんなお店があってよかった“ありがとう”
 こんな会社があってよかった“ありがとう”
 こんな会社と取引ができてよかった“ありがとう”

株式会社として売上高、利益額を高めるだけでなく、関連する周りの方々に、ワタミグループの日々の活動から生まれる「ふれあい」を通してより多くの方々に“ありがとう”を感じて頂くことを大切にしています。



環境・社会・人間への貢献

ワタミグループは、環境・社会・人間への貢献を目指して事業活動を展開していきます。

核となる外食の事業を中心として

- 「(株)キャリアビジョン」(ヒューマンリソース事業)
- 「グリーンイングストリー(株)」(花の小売業)
- 「ジャパン・リテイル・メンテナンス(株)」(環境・衛生事業)
- 「(有)ワタミファーム」(農業)

などの事業会社がさまざまな活動をしています。

また、非営利事業へも積極的に拡大していきます。特定非営利活動法人「スクール・エイド・ジャパン」(開発途上国への教育環境支援団体)を設立、支援を開始しました。

さらに、日本国内での教育活動の準備が進んでいます。

このように社会貢献活動や教育事業を通じて社会的な面での貢献を果たし、また一方、安全・安心の追求や自然環境保護を通じて環境的な面での貢献をも果たし、あわせて人間への貢献を実現していくことが私たちの目標です。

2004年ホールディングカンパニー制構想



社会全体を視野に入れた環境活動を進めています。

外食産業は環境負荷の小さい業種ですが、社会の一員として環境を守り、環境負荷を少なくする義務があると考えています。ワタミでは、社員、アルバイトメンバーの一人ひとりが環境を意識して行動し、その社会的役割を果たせるよう、具体的目標を掲げた取組みを行っています。

店舗活動 2001年度実績



外食産業の環境影響

外食産業は製造業と比べて、比較的環境負荷が小さい業種です。しかし、企業市民として環境を守り、努力することで環境負荷を少なくする義務があると考えます。また、数多くの社員、アルバイトメンバーの一人ひとりが環境を意識して行動するようになることは、社会的影響が大きいと考えています。

ワタミは、環境負荷の高いものから取組みを始めるために、店舗活動、本社活動、店舗に関わる本部業務の3つの視点から環境影響事項を洗い出し、点数づけを行いました。その結果、

店舗活動では

- 生ゴミの廃棄
- 可燃消耗品（紙ゴミ等）の廃棄
- 不燃消耗品（ビニール、ラップ等）の廃棄
- 水の使用
- 電気の使用
- 食用油・洗剤等の排水

本社活動では

- 紙（コピー用紙）の廃棄
- 電気の使用

が比較的大きな環境影響事項であることが認められました。

外食産業では有害化学物質や大型のボイラーなどは使用しないため、他業界と比較すると大きな環境影響事項は出ませんでした。これを踏まえて、全体として環境負荷が低い中でも、自社の中で優先順位をつけ、ISO14001^{用語1}の仕組みにもとづいて環境方針を定め、継続的に環境活動を推進しています。

環境基本方針

ワタミグループは、「安全・安心」な食材をより多く確保してお客様に提供するとともに、地球や自然にやさしい環境の保全に貢献することを当グループの責務と考え、全ての店舗および事業所を対象とした環境負荷の削減を図るための可能な限りの努力を行います。

環境方針^{用語2}

1. ワタミグループは、環境基本方針の理念にもとづき事業活動の中で環境影響の大きな項目について、環境目的・目標を設定して取組み、その結果を見直していきます。
2. 特に以下の項目に取り組むために具体的な環境行動計画を策定し、継続的改善および汚染の予防をお約束します。
電気使用量の削減（店舗）
水使用量の削減、排水の水質改善（店舗）
生ゴミ廃棄量の削減（店舗）
紙使用量の削減（本社）
リサイクルシステムの構築
3. ワタミグループの活動に関連する環境法規制および当グループが同意するその他の要求事項を遵守します。
4. ワタミグループのすべての従業員に対して継続的に教育を行い、環境に対する意識を高めるとともに本方針の浸透を図ります。
5. 本方針を適切な機会をとらえて積極的に公開し、
2002年5月1日

用語

1. ISO14001: 環境マネジメントシステムに関する国際規格で、環境に関する目標を定め、全員でそれを達成することによって「経営」と「環境」を両立させる仕組み
2. 環境方針: 自社の環境への取組みにおける経営トップからの社内外へのコミットメント
3. グリーン資材: 従来品と比較して環境負荷の小さい資材
4. BOD: 生物化学的酸素要求量の略。水質管理の一般的指標で、好気性細菌が、水中の有機物を酸化分解するのに必要な酸素量。数値が高いほど水質が汚濁していることを示している。
5. SS: 浮遊懸濁物質の略。水質管理の一般的指標で、水中に浮遊・懸濁している不溶解物量（一般的に2mm未満）
6. n-ヘキサン抽出物質含有量: ノルマルヘキサン抽出物質含有量のこと。動植物油脂類、鉱油類の量をあらわす指標として用いられている。
7. サーマルリサイクル: 廃棄物を燃やすことによって、エネルギーとして再利用すること

環境目的・目標

2000年度の目標達成状況の未消化項目の立て直しと年々法規制が強化されることを考慮して、2001年度は業務の洗い出しから再度実施し、環境方針、目的・目標を立て直しました。

2001年度目標・実績および2002年度目標

環境目的	2001年度目標	2001年度結果	2002年度目標	詳細
電気使用量を削減する(店舗)	1店舗当使用量(2000年度対比)現状維持および実測による検証	既存店2000年度対比: 96.2%	既存店使用量(2001年度対比)1%削減	P13
水使用量を削減する(店舗)	1店舗当使用量(2000年度対比)現状維持および実測による検証	既存店2000年度対比: 97.1%	既存店使用量(2001年度対比)1%削減	P13
排水の水質を改善する	水質測定による検証	BOD ^{用語4} : 110-1,780mg/L[300mg/L] SS ^{用語5} : 32-3,900mg/L[220mg/L] n-ヘキサン抽出物質含有量 ^{用語6} : 3-920mg/L[330mg/L] []内は社内基準値	水質測定値[3項目]社内基準値+10%以内	P14
生ゴミの廃棄量を削減する	野菜 グランドメニュー2品目)廃棄量削減	カット野菜1品について廃棄物削減を見込んで導入 年間廃棄量: 1店舗当り14.6t	既存店生ゴミ廃棄量5%削減	P14
可燃物の廃棄量を削減する	分別の徹底および計測の実施	割箸・串の分別定着 (2002年よりリサイクル実施) 年間廃棄量: 1店舗当り9.0t	(廃棄物リサイクルの向上としてまとめました)	P14
不燃物の使用量を削減する	発泡スチロール(刺身3品目)廃棄量削減	刺身用トレー廃棄削減量: 0.2t 納品用・発泡スチロールを1品目を紙箱に変更 年間廃棄量: 1店舗当り6.7t	(廃棄物リサイクルの向上としてまとめました)	P14
廃棄物リサイクル率の向上	—	—	分別廃棄遵守率90%	
電気使用量を削減する(本社)	空調機、有線放送の電源1日1時間停止	実施率: 89.1% 年間使用量: 203.900kwh (前比: 102.6%)	—	P15
グリーン ^{用語3} 資材を導入する	新規ユニフォーム(プレザー・エプロン)のエコ素材化実施	エコプレザー年間配布量: 222着(155.4kg)	店舗用事務用品 グリーン資材使用率50%	P16
紙の使用量を削減する(本社)	出店伸び率に対し帳票プリントアウト量10%削減	帳票用紙・年間プリントアウト量: 1.3t (出店伸び率比: 31.7%削減) コピー用紙: 1店舗当り使用量: 75.6kg(前比: 96.2%)	コピー用紙使用量出店伸び率対比2%削減	P15
リサイクルを推進する	店舗廃棄物一括回収促進	店舗及び本社への配送便の帰りにて一括回収後、サーマルリサイクル施設へ搬出 回収量: 0.8t(ビデオレター・パウチフィルム・メニュー・マニュアル等) ^{用語7}	23区内店舗の容器包装廃棄物リサイクルシステム稼働	P15
法規制の遵守	適合性のチェック実施	新店67店、既存店176店、15地区の法律・条例の改廃と適合性を確認	新店適合性のチェック 実施率100%	P10
緊急時対応および教育訓練	現行教育体系に環境教育を組み込み、実施	計画通りに実施	新入・中途社員への自覚教育 実施率100%	P10
JAS有機野菜・食品の使用率拡大	—	—	使用率20%	P20

: 廃棄物の1店舗あたり原単位は、2001年度平均の212店舗で換算しています。

: 既存店比較店舗数は176店舗です。

全社一丸となった環境管理体制を構築しています。

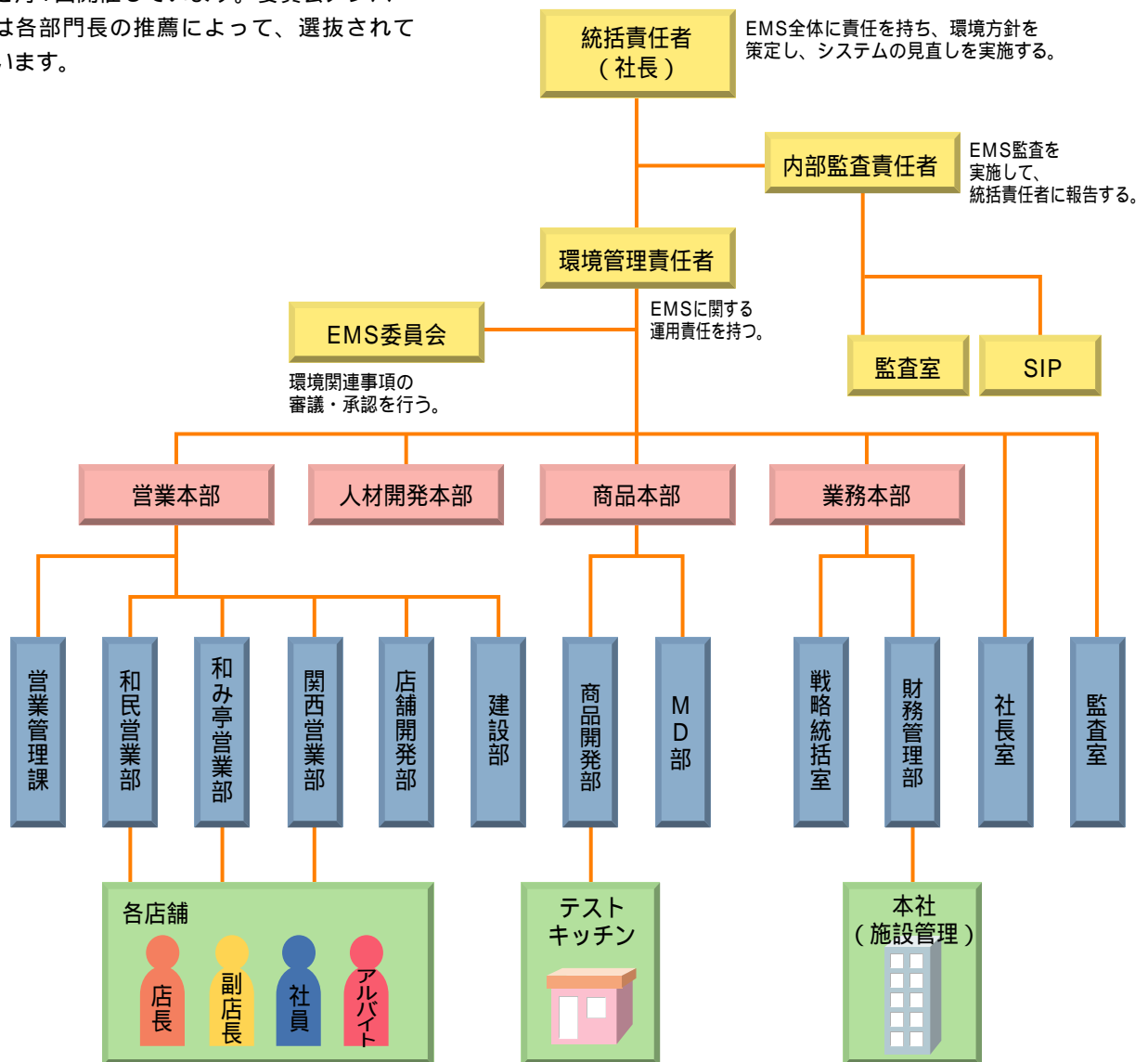
1999年7月、ワタミは外食産業では日本で初の、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001認証取得企業となりました。ワタミの環境マネジメントシステム（EMS）が、外食産業全体の環境活動の浸透のきっかけとなるよう、全社一丸となった環境管理体制構築に取り組んでいます。

環境管理体制

ワタミの環境マネジメントシステムは、下記のような組織体制で運用されます。統括責任者は、社長になります。

また、環境マネジメントシステムに関わることを審議するために、「EMS委員会」を月1回開催しています。委員会メンバーは各部門長の推薦によって、選抜されています。

2001年4月1日改訂



店舗では店長の責任において管理しアルバイトメンバーが理解、実行するシステムを構築しています。

環境活動にかかる費用と効果を把握しています。

環境活動のために、具体的にどれだけ費用がかかり、どれほどの効果があったのかを把握することは企業の責務と考えています。ワタミでは、環境保全コストを把握し、目的・目標コスト、法規制対応コスト、管理活動コストの三分類での集計と効果測定に取り組んでいます。

ワタミの環境会計^{用語1}

環境会計の集計範囲は、ワタミの当社および全直営店舗で2001年4月から2002年3月までに環境保全・管理活動のために支出した投資と費用の額です。それぞれの活動ごとにコスト項目を特定し、金額を集計しています。

- ワタミでは環境保全コストを大きく3つに分類しました。
- 店舗・当社における環境目的・目標を達成するための活動にかかるコスト（目的・目標コスト）
- 環境法規制に対応するために必要なコスト（法規制対応コスト）
- 環境マネジメントシステムの適切な運用・維持を図り、環境パフォーマンスを改善していくために必要なコスト（管理活動コスト）

集計結果

2001年度の環境保全コストは、費用の額が約9,700万円でした。そのうちの3分の2は目的・目標コストにあたります。店舗での環境活動を徹底させるためのメンバー教育と店長による実施状況の確認と徹底指示、清掃作業等への支出が含まれます。

また、残りの3分の1には、店舗からでるグリスラップ汚泥、廃油の委託処理費用、環境担当者の人件費などが含まれます。

2001年度の社内における経済効果については、店舗出店の加速により、エネルギー、水道使用量が約3億3千万円増加しました。但し、継続して省エネ・節水に取り組んでいる既存の176店舗におきましては、電気料金の値下げなどのプラス要因も影響して、今年度の活動の結果1億8百万円のコスト削減

環境保全コスト集計表

(単位：千円)

コスト項目		具体的な取組み	コスト ¹	説明ページ	
目的・目標コスト	店舗	従業員の教育と店長による実施状況チェック	節電・節水・ゴミの分別の徹底とチェック	19,090	P14
		電気・水使用量の削減	節電球、動力削減機の導入	24,130	P13
		排水の水質改善	グリスラップの管理・水質検査	12,519	P14
		生ゴミ、可燃物・不燃物廃棄量の削減	カット野菜の集中加工、梱包資材の削減、ビデオテープのリサイクル	1,116	P14・15
		グリーン資材の導入	エコ商材ユニフォーム(プレザー)の導入	3,330	P16
	本社	EMS委員会の活動	リサイクル・ゼロエミッション活動の計画	992	P17
		環境教育	従業員への教育の実施	293	P11
小計			61,470		
法規制対応コスト	適正な廃棄物処理	廃棄物の委託処理	24,499	P15	
	容器包装リサイクル法対応	容器包装リサイクルに関わる委託料	42	P10	
小計			24,541		
管理活動コスト	環境マネジメントシステムのもとでの管理活動	環境保全活動の推進、環境監査の計画的実施	10,890	P9・14	
合計 (+ +)			96,901		

社内における経済効果

(単位：千円)

効果項目	前年からの削減額	既存店における削減額 ²
省エネルギーの推進	-194,840	101,374
節水の推進	-134,435	6,691

1：2001年度の環境コストは、投資額はゼロ、全額費用の額に該当
2：2000年度に活動している176店舗で比較

環境リスクの低減をめざしてさまざまな活動を実施しています。

ワタミは、環境マネジメントシステムの適切な運用のため、内部監査員による全社的な厳しい環境監査と、最高経営層による見直しを行っています。また、自治体レベルの法規制遵守の重要性を再認識し、お客様と店舗近隣の方々への社会的責務を果たしています。

環境監査

ワタミでは、監査室の内部監査員が店舗の営業監査とあわせて環境監査を実施し、本社でも同様の環境監査を実施しています。

内容は主に取組みの進捗状況や法規制の遵守状況などをチェックし、特に店舗の環境監査ではゴミの分別状況、節電・節水教育、緊急事態への対応方法等がきちんとなされているかを見て回ります。この監査結果は監査終了後にEMS委員会及び統括責任者へ報告されます。

手順どおり実施されていない場合や、目的達成が出来そうにないことが判明した場合は各関係部門にその是正や予防のための対策立案・実行を要請し、状況により再チェックをします。さらに、本社勤務社員による店舗フォロー監査（SIP¹）を利用してフォローアップを実施します。これらの内部監査結果はシステムの見直し時の基礎資料となります。

2001年度の監査結果は、本社では、各部門担当者の専門性は高まりましたが、部門へのフィードバック体制がまだ不十分であること、店舗では、新人教育がトレーニングセンターの体制が整ってきたことにより確実に実施され、店舗における環境活動および運用状況が確実に向上していることが認められました。

社長による見直し

環境マネジメントシステムの見直しは、統括責任者である社長が自ら実践しています。

2001年度は2002年2月に「目的・目標の達成状況」「環境マネジメントシステム監査の結果」の他、食品リサイクル法の制定など廃棄物のリサイクル化への要求や、国内では安全安心な食材への要望も日に日に高まってきていること等を考慮して見直しを実施しました。

その結果、所見として

1. 今後農業経営を積極的に進めていくことを前提に、店舗メニューへのJAS有機野菜食品の使用率拡大を目指して1年目はJAS有機野菜20%の使用率確保を目標としていくこと
2. 「JRMリサイクルセンター」の稼働をきっかけとして、自社リサイクルシステムの構築を目的に東京23区内の容器包装ゴミのリサイクルからその仕組みを稼働させて1年ずつリサイクル率を向上させていくこと
3. 管理システムを向上させて、法規制（特に廃棄物）及び緊急事態対応策を定着化すること

の3点を挙げ、環境方針、目的・目標の変更とともに、店舗に新しい取組みが増えることを踏まえた店舗活動体制の再強化を指示しました。

店舗監査の主な監査項目

従業員の教育状況
環境文書と記録の管理状況
分別廃棄状況
照明スイッチング
水の出しっ放し対応
店頭・エアコン清掃
ごみ置き場・ゴミ箱の悪臭対策
店内騒音対策

2001年度の監査実績

監査名称	回数
本部監査	2回（6月、1月）
店舗監査	1店舗 1～2回（通年）
店舗フォロー監査	1店舗 4回（通年）



店舗監査の様子



店舗監査の様子

1. SIP：スタンダード・インポータント・パトロールの略。定期的に店舗の「スタンダード（あるべき姿）」の実施状況を確認する仕組みで本社管理職が4ヶ月に1回、お客様の視点で全店舗を評価するもの。

法規制遵守

2001年度の目標は自社に関わる法規制の適合性をチェックしていくことです。店舗においては、新規出店の67店舗をはじめ、15地区、既存店176店舗の法律の改廃と適合性を確認しました。

また、廃棄物の運搬に関しては、業務の「委託管理規定」や「運搬処理業者選定基準」を定めて、業務を含めて現行の確認と見直しを目標に、企業調査を実施しました。法規制にはありませんが、水質に関しては自主的に社内基準値を設けて管理しています。

2002年度目標としては、今後の大量出店を踏まえて、新規店舗の法規制の適合性チェックを100%実施していきます。

緊急事態の予防・対応

ワタミにおける緊急事態は、店舗における火災によって引き起こされる大気汚染、地震発生時などに転倒した洗剤および食用油が排水に流れることによって引き起こされる水質汚染の2項目を想定しています。

ワタミでは、これらの緊急事態に対する予防・緩和のための対策や発生時の連絡手順の確認などを「ISO14001店舗手順書」「店長マニュアル」に定めるとともに、店舗担当者および内部監査員にその指導と確認を義務付けています。

2001年度は、緊急事態に対する従業員への意識付けをしていくために、教育体系の中に環境教育を組み込んで緊急事態に対する意識と対応策の浸透を試みましたが、定着するまでにはまだ改善の余地を残しています。

そこで、この対策として具体的な模擬テストを実施していくなど、方法を変えて2002年度も継続実施していくこととしました。



環境に関する規定集など

ワタミの業務に関わる主な法規制

	規制名称	対象店舗
騒音	東京都公害防止条例： 第68条 規制基準の遵守	東京都内店舗
	神奈川県生活環境の保全に関する条例： 第32条 騒音及び振動の防止に関する規制基準	神奈川県内店舗
	第56条 飲食店に関わる外部騒音の防止	全店舗
	埼玉県公害防止条例： 第5章第3節 深夜騒音に関する規制 第68条1・2 深夜営業における静穏保持	埼玉県内店舗
	千葉県飲食店営業等に係る深夜等における騒音基準 第80条	千葉県千葉市内店舗
振動	東京都公害防止条例： 第68条 規制基準の遵守	東京都内店舗
	神奈川県生活環境の保全に関する条例： 第32条 騒音及び振動の防止に関する規制基準	神奈川県内店舗
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律： 第3章産業廃棄物第1節 産業廃棄物の処理 第12条第3項 事業者の処理	全店舗
	東京都廃棄物の処理及び再利用に関する条例： 第35条の3項 事業系一般廃棄物等の排出方法	浅草店
	容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律	全店舗
	食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律	全店舗

教育活動を通して、 環境意識の向上と円滑な運用をめざしています。

あらゆる機会を設けて従業員の教育に力をいれています。

環境教育・啓発

ワタミは全従業員を対象に環境活動への理解とISO14001の円滑な運用のため、さまざまな自覚教育と啓発活動に取り組んでいます。

社員一人ひとりの環境意識向上のため、社内報では社長からの環境メッセージ等を掲載し、ビデオレターではワタミの環境活動の考え方や具体的計画等を収録して、全従業員に年1回視聴してもらい、啓発を促しています。

2001年度は、従業員の環境活動への自覚が定着し、取り組んできた活動目標の達成につながりました。

環境教育研修

年間教育計画に則って、店舗や本社従業員に向けて、ワタミの環境方針、目的・目標および具体的行動手順の理解・浸透を目指しました。

また、ビン、缶、ペットボトル、古紙等の中間処理施設および最終処分場を見学するエコツアーを実施し従業員の環境活動への意識向上を促しました。

その他の研修体制

ワタミでは、環境の教育計画とは別に、各々の実力に合わせて受講できるセルフエントリー制の研修プログラム等、さまざまな研修を導入しています。

たとえば、契約栽培を通して、契約先である北海道帯広大正町の農場での農業研修は土起こしから収穫までを自分達の手で行っています。この研修は、2001年度は12回実施され、112名が参加しました。

年間教育計画表（2001年度）

	研修名	研修目的
全従業員	ビデオレター ^{用註1} 視聴	自覚教育
店舗社員	入社時研修	自覚教育
	店長認定セミナー	E M S 理解浸透教育
	店長研修	E M S 店舗手順教育
営業部課長	ISO特別セミナー	E M S 理解浸透・専門教育
本部社員	本部社員研修	E M S 本社手順教育
EMS委員	ISO特別セミナー	E M S 専門教育
監査室	ISO特別セミナー	内部監査スキルアップ教育
全従業員（公募）	エコツアー	環境問題・意識向上教育

エコツアー

第1回（2001年5月）	（株）春江 ビン・缶・古紙等、中間処理施設見学
第2回（2001年6月）	東京都最終処分場見学
第3回（2001年7月）	東京都最終処分場見学



中間処理施設見学



農業研修



東京都最終処分場見学

1.ビデオレター：ワタミグループ内で毎月1回、全店舗に向けて配付されるグループトップからのメッセージビデオで、これを通して会社の方向性やトピックスなどの情報発信をしています。
 2.中間処理施設：排出されたゴミをできる限り減量化、減容化および資源回収するための施設。
 3.最終処分場：可燃ゴミ、不燃ゴミを焼却・破碎・減容化したものを埋め立て処分するための敷地。

コミュニケーションを通して、環境活動の質を高めています。

ワタミは、環境関連のご意見やご提案、店舗への苦情や要望に常に耳を傾け、その確実な対応とフィードバックを心がけています。また、外食産業全体の環境活動向上のため、自治体や諸団体への情報公開と発信にも積極的に取り組んでいます。

環境情報の発信

ワタミは外食産業全体の環境活動向上のための情報発信を続けています。2001年9月には、東京商科学院専門学校にて、フードマネジメント講義の中でワタミの環境活動の位置付け、環境マネジメントシステムを導入するにあたっての意義、具体的活動内容について講義を行いました。

また、2002年6月には神奈川大学経営学部にてジャパン・リテイル・メンテナンス(株)中田社長が「経済学特殊講義」で昨年に続いて「現代企業と環境保全」をテーマに「外食産業の環境対策」について講義を行い、実社会の具体的な環境への取り組みを学生達に伝えることができました。



ジャパン・リテイル・メンテナンス(株)中田社長による講義

環境展

2002年3月9・10日に東京都大田区が主催の「地球環境展」に参加しました。「有機野菜」をテーマに模擬店の出店とパネル展示による「農作物と土の関係」についての模擬授業を行いました。ここでは、無農薬で自然に育てた本当の野菜の味や有機野菜の安全性を伝え、ワタミの環境への取り組みの一端を理解して頂くきっかけづくりができました。

取引先との協力

ワタミは店舗に直接関係する環境影響の大きい業務を担う取引先との協体制作りを推進しています。2001年度は、「ワタミ手づくり厨房」や、食材の配送を委託している共進運輸(株)に仕込み時に発生する生ゴミの肥料・飼料化の推進や住居地域における集配作業時の騒音軽減等ワタミの環境マネジメントシステムに則った協力を要請しています。



大田区「地球環境展」に出展したワタミのブース

環境コミュニケーション

ワタミでは、お客様や近隣の方々からの環境関連のご意見やご提案は、本社及び店舗にて受け付けております。

環境マネジメントシステムに関する伝達事項は、社内に組織されたEMS委員会で各担当者に報告され、担当者からそれぞれの該当部署へ伝達されます。

この流れの中で、必要に応じ、本社では各部ミーティング時等でその対応策を検討し、また店舗では、その内容について朝礼・終礼・ミーティングにて店長を通して全従業員へ伝えます。

2001年度は、計27件の問い合わせがあり、そのうち19件が企業、8件が学生からで、学生の間での環境に関する関心の高さが伺えました。

またその内訳は、環境マネジメントシステムの運用状況に関する質問、アンケート等が16件と最も多く、他、食品リサイクルの今後の方向性に関するお問合せ、取組み状況に関する取材等が続きました。

2001年度
問合せの内容内訳

